

B-81 婦人衣服基本形態の構成と人体体型要因との関係 第2報 頸部について

K.K.マインココ

土田ゆり子

奈良女大家政

○小松由紀

福山市立女短大

増田茅子

目的 第2報では、第1報の製図法に一部修正を加えて製図したバイシツウ形ドレスの着用実験を行ない、その補正結果から製図法と人体頸部の要因との関係を考察したのでこれを報告する。

方法 被験者はN女子大学生27名、平均年齢19.7才。人体計測はマルテン氏人体計測器、スライディングゲージを使用。写真カメラ(ニコン F2)による人体撮影を行った。バイシツウ形ドレスは、材料トワール(諸元、綿100%、平織、密度 $21.3 \times 21.6$ 本/cm<sup>2</sup>、厚さ0.39mm、重さ0.01g/cm<sup>2</sup>)を用いて製作し、着用実験を行なって型紙を得た。この型紙の寸法と人体計測寸法との関係について考察を行なった。

結果 主として後頸付根線の形状とパターンとの関係が大であった。

(1) パターンの後ネックラインの形状は、人体後頸付根の断面形状を平面展開した形として製図することができる。

(2) パターンの後ネックラインの長さは、人体計測寸法に若干のいせこみ分量を加えることにより、人体頸部へより適合するようである。

(3) パターンの左右頸付根真間幅と後ネックラインのいせこみ分量は、肩胛骨の部位での形状の影響が大のようである。